

バレーボールにおける性格とポジションの関連性に関する研究

木村心咲

指導教員 前田和範

研究背景

スポーツにおけるポジション選択は、選手個人の能力発揮やチーム全体のパフォーマンスに大きな影響を与える重要な要素である。先行研究では、ポジションごとに求められる身体的・技術的特性や役割の違いが明らかにされてきた。一方で、心理的特性、特に性格とポジションとの関連性については十分に検討されていない。

研究目的

本研究の目的は、バレーボール競技における選手の性格特性と各ポジションとの関連性を明らかにすることである。具体的には、Big Five 理論に基づいて選手の性格特性を評価し、ポジションごとの性格傾向の特徴を検討するとともに、指導者が認識するポジション像と選手の実際の性格特性との比較を行うことで、ポジション選定における性格理解の重要性を明らかにすることを目的とする。

研究方法

本研究では、大学生以上でバレーボール競技歴 7 年以上の選手 110 名とバレーボール指導者 15 名を対象に性格特性の評価に関する質問紙調査を実施し、選手の性格特性とポジションとの関係、および指導者の認識との比較を行った。

分析結果

選手調査では、Big Five とポジションとの間に統計的な有意差は認められなかったが、リベロにおいて開放性および外向性が低い傾向、誠実性におけるポジション差といった特徴的傾向が確認された。指導者調査では、誠実性や開放性を中心にポジションごとの性格イメージに有意な関連が見られた。選手と指導者の比較では、誠実性においては一致が多く、セッターで高く、アウトサイドヒッターで低い傾向が共通していた。一方、リベロの外向性に関しては、指導者のイメージと実際の選手の性格特性との間に乖離が認められ、ポジションに対する理想像と現実とのギャップが明らかとなった。

考察・結論

以上の結果から、ポジション選定が主に身体的・技術的要因や経験則に基づいて行われている現状において、性格特性と役割の不適合が生じる可能性が示された。今後は、性格特性を含めた心理的側面を考慮することで、選手の適応感や競技満足度の向上、さらにはチームパフォーマンスの最適化につながる可能性がある。